

# 中国語を母語とする日本語話者による 「から」「ので」の使用状況の考察

—日本語母語話者との比較を通して

耿 梅晶

## ◆要旨

**本**稿では中国語を母語とする日本語話者の会話での「から」「ので」の使用状況を日本語母語話者の使用状況と比較した。その結果、初対面の人のインタビューという限られた場面ではあるが、OPIでの中級話者と上級話者は「から」を多く使用し、日本語母語話者はほぼ「ので」を使用している傾向があることがわかった。

また、中級話者と上級話者と日本語母語話者は「から」の場合は「丁寧形+から」を多く使用し、「ので」の場合は「普通形+ので」を多く使用していた。超級話者は「丁寧形+から/ので」を多く使用している。超級話者が日本語母語話者と比べて、「丁寧形+ので」を多く使用した理由は日本語母語話者が丁寧形を使わないところで使用したためだと考えられる。

## ◆キーワード

から、ので、丁寧き、インタビュー、初対面

## ◆ABSTRACT

The usage conditions of “kara” and “node” in Japanese conversations of Chinese native speakers and Japanese native speakers are compared. The results show that Japanese native speakers are inclined to use “node”, while intermediate and advanced speakers tend to use “kara” often.

For politeness, intermediate and advanced speakers frequently use forms of “polite form + kara” and “Plain form + node”, whereas superior speakers often use a form of “polite form + kara/node”. The reason of which may be offered by the fact that superior speakers use the form in situations in which Japanese native speakers do not.

## ◆KEY WORDS

kara, node, politeness, interview, first meeting

## A Study of Usage Condition of *Kara* and *Node* by Chinese Native Speakers who Speak Japanese

GENG MEIJING

## 1 目的と先行研究

これまで「から」「ので」に関する用法分類、意味の違いなどは、永野（1952）をはじめ、記述文法の分野で数多くなされてきた。しかし、日本語話者が実際の運用の中でどのように使用しているかに注目した研究はまだ多くない。話者は実際どのように「から」「ので」を使用しているか、その実態を知ることが重要だと思われる。

中国語を母語とする日本語話者（以下：中国語母語話者）の「から」「ので」の使用状況に注目した研究は藤森（1995）と周（2009）がある。藤森（1995）は日本語母語話者、中国語母語話者、韓国語を母語とする日本語話者、それぞれが社会関係（親疎関係、上下関係など）によって、どのように相手の誘いあるいは依頼を断っているかを4つの場面を通して調査した。その結果、日本語母語話者の場合は親しい相手には「から」、目上には「ので」の使用が圧倒的に多いが、疎の相手と目下の相手に対して多様なバリエーション（「し」、「のだ」など）をしていることがわかった。一方、中国語母語話者には親と疎、目上と目下の相手にそれぞれ「から」「ので」の2つで使い分けをしている傾向が強いことを明らかにした。

藤森（1995）は上司に対する「から」の使用が日本語母語話者よりも中国人学習者のほうが多いことが今後の教育的な課題となることを示唆している。周（2009）はそれを評価したうえで、その調査での協力者の日本語学習歴や職業などにばらつきがあったこと、協力者に「部下に昇給を依頼される」場面を与えるなど、場面設定の適切さが欠けていることを指摘した。そして、調査対象を日本語母語話者と中国語を母語とする中国在住の日本語学科在籍の学習者とした。それぞれが親疎関係によって、相手の誘いを断る際にどのように「から」「ので」を使用しているのかを6つの場面を設定し談話完成テストを用いて調査した。その結果、日本語母語話者は親しくない相手には「ので」、親しい相手には「から」をそれぞれ多く使用しているのに対し、学習者は親疎に関係なく、「から」「ので」を混用している現象を明らかにした。

藤森（1995）および周（2009）での調査は設定した場面でどのように応答する

のかを質問紙を用いて調査しており、実際の運用場面ではない。そこで、本稿では日本語母語話者と中国語母語話者のOPI（会話能力を測るためのインタビューテスト）データを比較し、初対面の人からインタビューを受けるという改まった場面で、中国語母語話者が「から」「ので」をどのように使用しているのかを、全体の使用数および丁寧度の視点から日本語母語話者と比較する。

## 2 調査方法と対象

中国語母語話者が「から」「ので」の知識をどれほど持っているかではなく、実際の運用でどのように「から」「ので」を使用しているかを知るために、OPIテストを文字化したKYコーパスを使用した。そして、日本語母語話者のデータは上村コーパスを使用した。

KYコーパスでの中国語母語話者の初級、中級、上級、超級の人数はそれぞれ5人、10人、10人、5人となっているが、本稿では複文での使用状況に焦点を当てるため、より多くの用例が観察されると思われる中級、上級と超級話者に絞り、25人のデータを分析対象とした。

上村コーパスの会話形式はKYコーパスと同じように、初対面インタビューによるOPIにそった個人インタビュー形式を取っている。上村コーパスには日本国内やアメリカでとった日本語母語話者と非日本語母語話者のデータがあり、今回はその中から日本語母語話者5人のデータを使用した。

上村コーパスのインタビューの第1部は学生の場合は現在の専攻、将来の仕事など、社会人の場合は仕事や住居などについて、第2部では社会や時事的問題が取り上げられている。第3部はロールプレイである。上村コーパスはKYコーパスの話の内容、テーマとほぼ同質のものと考え、使用した。

また、本稿では(1)や(2)の例文のような複文での「から」「ので」の使用に焦点を当て、(3)と(4)、(5)のような終助詞的用法の「から」「ので」や「からには」「からといって」「からこそ」といった「から」を分析対象としていない。

例文はKYコーパスからの引用である。（分かりやすくするため、フィラーなどを削除し、文を整えた。以下同様。）

- (1) あの、シャワーとお風呂、家にありますから、あんまり、あの公衆の場所行ったことありません。(上級 CA01)
- (2) ドイツでの滞在時間が短かったのであまりよくわからなかったんですが、うちの主人が、スウェーデンに来る前にドイツで何カ月くらい、生活したことがあるんですが。(超級 CAH04)
- (3) いや、スポーツ、そうですね、スポーツの一種と思ったらいいかもしれません、とにかくあれは体的にも精神的にもいいということですから。(上級 CAH06)
- (4) 嫌ではないんですが、ええでも一応やってみたい気持ちは全然持っておりませんので。(上級 CS03)
- (5) いえ、びっくりしたのはお稽古事とか、いろんな、ダウン症だからといって、こもってるのではなくて、エアロピクスにも行ったり、陶芸にも行ったり…(日本語母語話者)

使用例を数えるときは全体的な使用状況を考察したいので、中国語母語話者の誤用や不自然なところも使用例として数えた。

### 3 結果

中国語母語話者の中級、上級や超級が「から」「ので」(くだけた形式の「んで」も含む)をどのくらい使用したかを調べたところ、それぞれのレベルの「から」「ので」の全使用数、1人当たり使用数の平均数、「から」「ので」が全形態素に占める割合の平均値は表1の通りとなった。( )内はそれぞれのレベルの分析対象者数である。

表1では中国語母語話者と日本語母語話者の「から」の全形態素に占める割合の平均値は、上級の0.89%をピークに、超級の0.41%、中級の0.25%、日本語母語話者の0.18%の順に減っていき、日本語母語話者の「から」がもっとも低くなった。

中国語母語話者と日本語母語話者の「ので」の全形態素に占める割合の平均値は、中級0.08%、上級0.13%、超級0.55%、日本語母語話者1.01%と順に増

表1 中国語母語話者と日本語母語話者の使用数の比較

		中級 (10)	上級 (10)	超級 (5)	母語話者 (5)
から	全使用数	42	98	39	12
	平均使用数	4.20	9.80	7.80	2.40
	全形態素での割合の平均値 (%)	0.25	0.89	0.41	0.18
ので	全使用数	13	17	53	70
	平均使用数	1.30	1.70	10.60	14.00
	全形態素での割合の平均値 (%)	0.08	0.13	0.55	1.01

えていった。

中国語母語話者の「から」の使用数を「ので」と比べると、中級ではおよそ3倍、上級ではおよそ7倍になっているが、超級ではわずかに下回っている。一方、日本語母語話者の「ので」の使用数は「から」のおよそ5.5倍である。

初対面の人のインタビューを受けるという限られた場面ではあるが、日本語母語話者は「から」よりも「ので」を選択し、使用していることが分かる。

超級になっても、「から」「ので」の使用数は日本語母語話者と比べると、大きな差があることが明らかである。OPIでは超級を一番高いレベルと認めているが、「初対面の人のインタビューを受ける」という改まった場面では超級でもバランスよく「から」「ので」を使用できていないようだ。

## 4 中国語母語話者と日本語母語話者の「から」「ので」の使用状況の比較

### 4.1 中級と上級話者による「から」「ので」の使用状況

中級話者の「から」の使用状況を見ると、「から」の前の語彙は「ある」「いる」「好き」「起きる」「便利」などといった簡単な語彙が多かった。上級になると、語彙が豊富になっただけでなく、文脈に合わせた動詞の活用形の使用もできるようになっている。

(6) その日本に来て、もちろん日本のいろいろの長所も学びまして、まだ中国の、今までの伝統とか、文化について、違う角度立場から、違う視野で見られるから、その点から言えば少し変わってるといいますけど。(上級 CAH01)

一方、中級では「から」を使わないところで使ってしまったたり、「から」を使っているが、完全な文が作成できなかつたりすることもある。

(7) あれー、朝は、起きるときちょっと遅いですから、恥ずかしい、7時半ごろ起きますからパン焼いて、コーヒーも作り旦那さんと一緒に食べます、食べますからー、もう洗濯物、洗濯したら干して、あとは一掃除機掃除します、時々新聞も読みます、でも新聞半分わかります、あれなかに漢字あるから、わたし中国人ですからあれ漢字もだいぶ意味がわかる。(中級 CIL02)

上級になると、さらに「から」の過剰使用が目立つ。

(8) そうです、たとえば、ストレスがたまるとか、日本のいじめ問題とか、これは、私の国には全くない問題ですからどうして日本っていう社会、こういう問題を抱えているんですかってね。(「のに」の代用: CAH07)

(9) あのー女、女の人も社会にでて仕事をしたりなんかするから、それで家庭のことも、もちろんあの男性も社会にでてるから、家庭のことも、あの女の方が大変でしょ、だから、やっぱり家事は分担してやらなければいけないということです。(「けど」の代用: CAH06)

表1では上級になると中級と比べて「から」の使用数が3.5倍も増えた。複文が使えるようになったことで、「から」の使用例が増えたことが1つの理由として考えられるが、もう1つの理由として考えられることは、「から」がほかの接続節を代用するなどの過剰使用が増えたことであろう。さらに、「から」自身は「終助詞的な用法」も持っているが、上級ではこの「から」の終助詞的

用法も多く使用されている。特に長い発話では「から」が何度も使用される例も見られる。

(10) 私から見れば中国はやっぱり大きすぎるから、これ言ったらちょっと悪いかもしれないんですけど、あのーやっぱり中国大きすぎるんですからね、全体的に、あのー治まるのはちょっと無理っていうところがありますからね。(上級 CAH07)

周(2009)は「から」を使うと、押し付けがましい感じを与えるため、待遇表現からは、目上の人に対しては、非常に失礼になりかねないのに対して、「ので」を使うと、やわらかくて、礼儀正しい感じを与えると述べている。終助詞的な用法など違う用法の「から」を同じ文で何回も使用したりすると、特に初対面の人からのインタビューという場面、あるいは面接を受けるといった改まった場面では相手に非常にくれた印象を与える可能性もあると思われる。そのため、正式な場面では1つの発話において、違う用法の「から」を何回も使用することを控えるように指導したほうが良いと思われる。

また表1では、中級と上級の「ので」の使用率は「から」よりはるかに少なかった。中級話者は「ので」の前で「ある」「いる」のような状態性動詞と一緒に使っていることが多いが、上級になると、動作性動詞、形容詞、名詞などとの使用もできるようになっている。

(11) 悪いの警察は、恨みの、恨みがありますので、報復のためにいろんな、悪いことをして…(中級 CIM05)

(12) 小さいからずっと向こうで、生活してきましたので、慣れました。(上級 CAH02)

「ので」の使用では「から」のような過剰使用はあまり見られなかった。

## 4.2 超級と日本語母語話者による「から」「ので」の使用状況

表1では超級話者による「から」の使用数が全形態素に占める割合は、上級

話者のおよそ2分の1になっていた。また、超級では上級話者に見られた「から」の過剰使用の現象はほとんど見られなくなった。また、超級話者による「ので」の使用割合は上級話者より4倍以上増えている。このことから、「から」の使用が減ったのは過剰使用が減ったことと「ので」の使用が増えたことが考えられる。

(13) そうですねえ、あのすごくあの、よく遊んでましたので、何て言いますか、他の先生に叱られますと、その先生が助けてくれたりとかしましたので、あのそれで、すごく尊敬して、それで、他の所へ行かれましたから残念におもいます。(超級 CS05)

日本語母語話者による「から」の使用は超級話者と比べても非常に少なかった。中国語母語話者が「から」を複文で使用する例では「ので」と置き換え可能なものがほとんどだが、日本語母語話者の使用例では(14)(15)のように「ので」と置き換えられない例が見られる。一方、中国語母語話者に日本語母語話者のように「ので」と置き換えられない「から」の使用は見られなかった。

(14) ダウン症だから、そういうダウン症の人達だけで教室を開くっていうんじゃないくて、色々、おばあさんとかがそういう趣味でいろんな手芸をやってるところに私達も入れて下さいってゆって、私達が入って行くんですよ。(日本語母語話者)

(15) 例えば経済をやっていたから、証券に強いとか、そういうことやないと思うんですよ。(日本語母語話者)

日本語母語話者による「ので」の使用数は全形態素の割合のおよそ1%を占めており、超級話者のおよそ2倍であった。超級では「ので」の使用率が少し増えたものの、「から」の使用率は日本語母語話者に比べてまだ高いと言えよう。日本語母語話者は初対面のインタビュアーによるインタビューを受けるとい立場から、より丁寧な感じがする「ので」を選択したと考えられる。超級話者は高度な日本語能力を持っているものの、改まった場面で「から」を多く

使用しており、日本語母語話者との違いが明らかである。

## 5 丁寧さから見た中国語母語話者と日本語母語話者の使用特徴

中国語母語話者と日本語母語話者はそれぞれ「丁寧形／普通形+から／ので」をどのぐらいの割合で使用しているかを調べるため、表2で中国語母語話者と日本語母語話者の「丁寧形／普通形+から／ので」の割合をまとめた。

表2 中国語母語話者と日本語母語話者の「丁寧形／普通形+から／ので」の使用率

接続節	レベル	丁寧形	普通形	丁寧形の使用率	普通形の使用率
から	中級	29	13	69.0%	31.0%
	上級	61	37	62.2%	37.8%
	超級	26	13	67.0%	33.0%
	母語話者	7	5	58.0%	42.0%
ので	中級	4	9	30.0%	70.0%
	上級	5	10	33.0%	67.0%
	超級	44	9	83.0%	17.0%
	母語話者	8	62	11.4%	88.6%

### 5.1 中国語母語話者と日本語母語話者の「丁寧形／普通形+から／ので」の使用状況

#### 5.1.1 中級と上級話者による「丁寧形／普通形+から／ので」の使用状況

表2に見られるように、中級話者による「丁寧形+から」「普通形+から」の使用率はそれぞれ7割、3割となっている。上級はそれぞれ6割と4割ほどで、中級の「丁寧形+から」の使用率より少し減った。一方、中級話者の「丁寧形+ので」「普通形+ので」の使用率は3割と7割となっているが、これは上級になってもほとんど変わらなかった。つまり、中級と上級話者は「丁寧形+から」「普通形+ので」を多く使用していた。



5.1.2 超絶と日本語母語話者による「丁寧形／普通形+から／ので」の使用状況  
日本語母語話者と超絶話者の「丁寧形+から」の使用率はほぼ同じ6割台である。一方、「ので」の使用には大きな差がある。日本語母語話者は9割近く「普通形+ので」を使用しているのに対し、超絶話者はおよそ8割で「丁寧形+ので」を使用している。

日本語母語話者は「から」より丁寧な「ので」を選択しているものの、もっと丁寧な「丁寧形+ので」を選択していない。これは、日本語母語話者にとって、丁寧にしすぎることは逆に距離を置くことになるため、十分尊敬の意を表すことができる「普通形+ので」を選択したと思われる。超絶話者のほとんどが初対面となるインタビュアーに丁寧に表現しようとしているため、もっとも丁寧な「丁寧形+ので」を使用しているのかもしれない。

超絶話者と日本語母語話者の「丁寧形+から」の差は、日本語母語話者が丁寧形を使わない部分でも超絶話者が丁寧形を使用していることによって、結果に影響したと考えられる。超絶話者と日本語母語話者の実際の使用例を見ると、超絶話者は名詞やナ形容詞などとともに「ですので」を使うのに対し、日本語母語話者には1例もなかった。日本語母語話者による「んで」の使用例は全て「普通形+んで」を使用しているが、超絶話者は「丁寧形+んで」のパターンも使用した。

名詞の場合

(16) そういうところはたぶん、日本政府の判断間違えたっていうか、そういうところはあったらいいんですけども、結局今は、かなり問題あるようですので、それは別にしましてまずイラクからクエート侵略した問題については… (超絶 CS03)

(17) 源氏物語は、女性の手で作成された文学作品であることを非常にびっくりしました、中国では、無論ありえない気もしますが、考えられないことですので、それに非常に関心をもちました。 (超絶 CS03)

(18) なんか今回はあの日本の選手もいろいろ、あの期待できそうな方々がいらっしやるようなので、ええ、あの一、楽しみにしています。 (日本語母語話者)

(19) もう、アマチュアといってもみんなプロと同じような形で、でもそれだけに時間を費やしているってことなので、それほどいけないことではないと思いますけれど。 (日本語母語話者)

「んで」の場合

(20) 大学を卒業してからも、ほかの病院に配属されて、真面目に仕事をしています、日本語も少しはできますんで、留学にきでも、日本語で講義を聞くとかそういうところではあんまり不自由はしないやろうと思います。 (超絶 CS01)

(21) あの、去年も後半に行ったんです。夏の。そうしたら、結構すいてて、あの、地方に行くと気温も結構下がっているんで過ごしやすくてよかったです。 (日本語母語話者)

5.2 教科書での「丁寧形／普通形+から／ので」の扱い

教科書での「丁寧形／普通形+から／ので」の扱いを知るため、代表的な日本語教科書のうち、『新文化日本語』『進学する人のための日本語初級』『日本語初級』『初級日本語』『みんなの日本語』と中国で使われている『標準日本語』の6冊の教科書でのそれぞれの使用状況を調べた。結果は表3の通りである。

各教科書での例文の数にばらつきはあるが、中国語母語話者が「丁寧形+から」「普通形+ので」を多く使うという結果と一致している。

教科書の例文で特に目立つのは「丁寧形+ので」の用例が『新文化日本語』

表3 教科書での「丁寧形／普通形+から／ので」の用例数

		新文化	初級	日本語初級	初級日本語	標準日本語	みんなの日本語
から	丁寧形	13	12	13	12	12	11
	普通形	8	5	5	4	0	4
ので	丁寧形	2	0	0	0	0	0
	普通形	23	5	3	9	10	9

新文化：新文化日本語 初級：進学する人のための日本語初級 単位：回

の2例を除き、すべて0になっていることである。『新文化初級日本語教師用指導手引き書』では日常生活で「です・ます体+ので」の形を使うと丁寧すぎる印象を与えるので、ここでは「基本形+ので」の形を使うように指導するといった説明がある。こうしたことが中級と上級話者の「丁寧形+ので」の割合の少なさに影響したことがうかがえる。

## 6 まとめ

この論文では中国語母語話者と日本語母語話者のOPIデータの比較を通して、初対面の人のインタビューを受けるという場面で、中国語母語話者の「から」「ので」の使用数、使用状況や丁寧さの角度から考察をした。その結果は以下の(a)-(c)である。

- (a) 初対面の人のインタビューを受けるという限られた場面ではあるが、「から」と「ので」の使用状況を比べると、中国語母語話者が「から」を多く使用しているのに対し、日本語母語話者はほぼ「ので」を選択し、使用している傾向がある。
- (b) 中国人学習者はOPIのレベルが中級から上級に上がるにつれ、「から」と一緒に使われる語彙なども豊富になり、「から」の使用数も大幅に増える。これは「から」が「けど」「のに」などの接続助詞を代用するという過剰使用が増えたことが1つの理由だと考えられる。中級と上級による「ので」の使用例は少なく、過剰使用もあまり見られなかった。超過では「から」の過剰使用はほとんど見られなくなり、その代わりに「ので」の使用率が4倍も増える。「から」の使用がこの段階で減ったのは過剰使用が減ったことと「ので」の使用が増えたことが考えられる。しかし、「ので」の使用率はまだ日本語母語話者の2分の1ぐらいしかなかった。日本語母語話者による「から」の使用例には「ので」と変えられないものもある。
- (c) 丁寧さに関しては、中級と上級話者は「丁寧形+から」「普通形+ので」を多く使用した。この現象は教科書の「丁寧形/普通形+から/ので」

の扱いに近かった。日本語母語話者も「丁寧形+から」「普通形+ので」を多く使用した。しかし、超過話者は「丁寧形+から/ので」の両方ともを多く使用している。超過話者に「丁寧形+ので」の使用が多かった理由としては日本語母語話者が丁寧形を使わない部分でも丁寧形を使用していることが考えられる。

〈元一橋大学大学院生〉

### 参考文献

- 周升干 (2009) 「待遇表現から見る原因・理由を表す「カラ」「ノデ」—中国の日本語話者と日本語母語話者を比較して—」『言語文化研究 (言語情報編)』4, pp.123-135. 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
- 藤森弘子 (1995) 「日本語話者に見られる「弁明」意味公式の形式と使用—中国人・韓国人話者の場合—」『日本語教育』87, pp.79-90. 日本語教育学会

### 【参考教科書】

- 『初級日本語』(1990) 東京外国語大学留学生日本語教育センター, 凡人社
- 『中日交流 標準日本語』(1992) 人民教育出版社
- 『進学する人のための日本語初級—教科書』(1994) 国際学友会日本語学校
- 『新文化初級日本語』(2000) 文化外国語専門学校
- 『新文化初級日本語教師用指導手引き書』(2008) 文化外国語専門学校
- 『日本語初級1』(1991) 東海大学留学生教育センター, 東海大学出版会
- 『みんなの日本語初級』(1998) スリーエーネットワーク